

【日本農業新聞 2016年6月28日付～7月4日付の紙面から】122回目

<コメント>

英国国民は、国民投票で欧州連合（EU）離脱を決めた。だが直後から、離脱の旗振り役の政治家から、“バラ色の公約”をほごにする発言が相次いでいる。離脱に投票した人々に、後悔の声が広がっているという。“民主主義先進国”の英国としては、まさに悲劇的状況だ。政治家の嘘は、国を亡ぼす。我が国でも似たようなことがあるのではないか。安倍晋三政権のTPP影響試算と関連対策に嘘はないのか。参院選で情報公開し、きちんと議論すべきだ。国民はそれを見極めて一票を投じたい。

<概要>

■日中韓FTA首席会合 交渉加速を確認／英EU離脱 貿易拡大が重要

【6月28日付2面】

日中韓3カ国は27日、自由貿易協定（FTA）交渉の第10回首席代表会合をソウルで開いた。英国による欧州連合（EU）離脱で、世界経済の先行きが不透明感を増す中、FTA交渉の加速による貿易拡大が重要との考えを確認した。会合は28日まで。農産物など関税交渉の枠組み合意に向け、各国の主張の隔たりが埋まるかが焦点となる。日本からは、片山慶一外務審議官が首席代表として出席し交渉前進を目指す考えを示した。

■日中韓FTA 関税枠組み前進せず

【6月29日付3面】

ソウルで開かれていた日中韓自由貿易協定（FTA）交渉の首席代表会合が28日、終了した。具体的な関税交渉を進めるための枠組みには合意できなかった。次回是中国で開催する方向で、時期は調整中。関税交渉の枠組みについては主張の差が埋まらず、個別品目の交渉に入る前に膠着（こうちゃく）状態が続いている。貿易自由化の水準を高めたい日本と慎重な中国との間で隔たりがある。

■トランプ氏 TPP「脱退する」／米大統領選 争点に

【6月30日付1面】

米国大統領選で共和党の候補指名を確実にしたトランプ氏は28日、ペンシルバニア州で行った演説で、「TPPから脱退する」と明言した。再交渉する考えもないとし、TPPへの反対姿勢をこれまで以上に強めた。TPPは大統領選の主要テーマとなり、民主党の候補指名を確実にしたクリントン前国務長官は再交渉の可能性に言及。両候補とも反対の立場から主張をより先鋭化させている。

■再交渉の機運警戒／解説

【6月30日付1面】

米国の大統領選の有力候補者が競ってTPP反対を訴え、脱退や再交渉にまで言及し始めた。日本では「選挙向けの発言」と見る向きもあるが、米国で再交渉の機運が高まる可能性があり、要注意だ。米国の農業団体は概ねTPPを支持し、早期の議会承認を求めている。

いるが、再交渉になれば日本にも矛先が向かい、農業交渉を求める可能性は否定できない。今回トランプ氏はTPPからの離脱を訴えたが、2国間の通商交渉には意欲を示している。

■行き詰まる自由貿易 経済連携 影響連鎖も／反TPPで承認不透明／ニュース・アイ

【7月2日付3面】

世界の自由貿易体制が岐路に立たされている。米国では、大統領候補がTPPからの脱退や再交渉に言及。欧州では、英国の欧州連合（EU）離脱決定で、日本や米国との経済連携交渉が停滞する可能性がある。各国のTPP承認手続きや、日本の他の経済連携交渉などにも影響は必至だ。だが、国内の生産現場からは「米国で承認されるかどうか分からないのに、日本だけが承認ありきでいいのか」（宮城県の稲作農家）との疑問も噴出する。

■参院選 ラスト日曜 「1人区」農政熱く／青森 TPP巡り火花

【7月4日付1面】

10日投開票の参院選の最後の日曜日となった3日、与野党は党幹部を激戦区に投入した。特に勝敗の鍵を握る「1人区」では、東北や甲信越地方などを中心に競り合いが続き、農政改革やTPPが大きな争点になっている。青森県選挙区は、自民党現職で元参院予算委員長の上野力氏に、元農水政務官で野党統一候補の民進党新人・田名部匡代氏が挑み、TPPや農政に対する不安や不満もあり、候補者は農業政策でも論戦を続けている。

以上